

国際プロモーションを活発化させる北米の航空宇宙産業集積地域

従業者数で17倍と2.7倍、生産額で14.7倍と1.6倍。これらは世界でも有数の航空宇宙産業の集積を誇る米国、カナダの航空宇宙産業の規模を日本と比較したものととなります。世界の中でも大きな存在感を示す米国、カナダの航空宇宙産業ですが、世界有数の航空機メーカーである米国ボーイング社の最新鋭機・787型機では、日本をはじめ、世界各国の機体部品メーカーが部品供給を行うなど、国際的な部品供給体制の一層の進展が見られます。また、世界第3位の民間航空機メーカーのボンバルディア社が拠点を置くカナダ・ケベック州では、地元の航空宇宙産業振興団体であるエアロ・モントリオールが、ここ数年で欧州を中心に地域間の連携・協力協定の締結を積極的に進めるなど、航空宇宙産業において国際的な連携がますます重要視される傾向が見受けられます。

そうした中で、このほどジェトロサンフランシスコセンターにおいて、「北米航空宇宙産業における地域間国際連携に関する基礎調査」(*)を実施し、愛知県サンフランシスコ産業情報センターにおいてもその調査活動に協力を行いましたので、その概要についてご紹介します。(*) https://www.jetro.go.jp/world/n_america/reports/07000192

<日本全体と同規模以上の集積を持つ北米各地域の航空宇宙産業>

今回の調査では、北米の中でも航空宇宙産業で厚い集積を有する州や国際的なエアショー（航空宇宙展）への積極的な参加が見られる州など、米国・カナダで8つの州を取り上げ、それぞれの国際展開の状況について調査を行いました。

まず今回対象とした州の航空宇宙産業の集積を雇用者数や企業数などの基本指標でみると(表1)、

多くの州で日本全体を上回っていることが分かり、北米の各地域が一国並みの航空宇宙産業の集積を持つ状況にあると見ることができます。

【図1】調査対象とした北米の主な航空宇宙産業集積地



【表 1】北米の主な航空宇宙産業集積地域の基本指標

州名	航空宇宙産業 雇用者数 (2008年)	航空宇宙産 業企業数 (2002年)	州GDP [US\$] (2008年)	州人口 (2009年)	国防総省助成金・ 件数 [US\$] (2008年)
ワシントン州(米国)	81,932人	132社	3,230億ドル	650万人	13,243件 33億7,900万ドル
ノースカロライナ州(米国)	6,159人	17社	4,000億ドル	922万人	9,124件 21億7,700万ドル
フロリダ州(米国)	32,366人	157社	7,440億ドル	1,830万人	27,420件 154億8,500万ドル
テキサス州(米国)	55,069人	185社	1兆2,230億ドル	2,430万人	32,576件 587億7,000万ドル
オハイオ州(米国)	17,456人	93社	4,720億ドル	1,150万人	18,996件 68億5,500万ドル
カンザス州(米国)	42,122人	84社	1,230億ドル	280万人	4,409件 22億8,400万ドル
カリフォルニア州(米国)	118,532人	416社	1兆8,470億ドル	3,680万人	64,975件 428億5,400万ドル
ケベック州(カナダ)	42,400人	236社	2,827億ドル	755万人	-
日本	30,967人	90社	4兆9,093億ドル	1億2,770万	-

注：ケベック州のGDPは、1米ドル=1.066カナダドルとして換算。

米国では国防費からの助成金や大型発注が各地域の航空宇宙産業（軍需産業を含む）の発展や雇用動向にも直結し、大きな影響を与えています。また、民間航空機メーカーや国防機関からの部品・サービスの発注は国内外におよび、競争の激化も相まって、地域間での競争意識は一層高まってきているように感じられます。とりわけ昨年は、ボーイング社の787型機第二生産工場の建設地をめぐり、同社の大規模工場が集積するワシントン州と、航空宇宙産業では新興のサウスカロライナ州が候補地として注目されました。最終的に雇用環境、支援策などからサウスカロライナ州が立地場所となりましたが、同産業での長い歴史や大規模集積が必ずしも有利でないことを証明した形になり、今後、こうした形の誘致競争は一段と激しさを増すように思われます。

<知名度向上を目的に国際的な航空宇宙展への参加を進める北米各州>

そうした中で、北米の航空宇宙産業集積地域ではどのような国際的な活動が行われているのでしょうか。主要8州における国際展開について調べてみると、それぞれ国際的なエアショー（航空宇宙展）への参加や海外の特定地域への使節団の派遣、さらには、交流・連携・協力のための覚書（MOU）の締結などを行う事例がいくつかみられます。

【表 2】北米の主な航空宇宙産業集積地域の海外展開

州名	交流国・地域	交流形態
ワシントン州(米国)	パリ(仏)、ドバイ(アラブ首長国連邦)	・エアショー(*) ・海外都市訪問
ノースカロライナ州(米国)	パリ(仏)、ファンボロー(英)	・エアショー(*)
フロリダ州(米国)	パリ(仏)、ファンボロー(英)、シンガポール、ドバイ(アラブ首長国連邦)	・エアショー
テキサス州(米国)	英国、ドイツ、フランス	・エアショー ・連携機会模索のためのミーティング ・貿易使節団派遣
オハイオ州(米国)	イスラエル	・貿易使節団派遣
カンザス州(米国)	パリ(仏)、ファンボロー(英)、ドイツ、ハンガリー、中国	・エアショー(*) ・使節団受入れ

		・貿易使節団派遣
カリフォルニア州(米国)	ツールーズ(仏)、ファンボロー(英)	・エアショー ・覚書(MOU)締結
ケベック州(カナダ)	ハンブルグ(ドイツ)、パバリア(独)、パリ(仏)、ファンボロー(英)、イタリア、ベルギー	・エアショー ・覚書(MOU)締結

注：交流形態のうち、(*)の付してあるものは、州内企業がエアショーに参加するための費用支援があることを示す。

エアショーへの参加形態は、州内組織のみが出展する場合や、州内組織が地元の企業と共にブースを出す場合などがあり、各州ともエアショーを州の知名度を高めるために有効活用している様子が見えられます。また、州による支援形態も様々ですが、ワシントン州、ノースカロライナ州では州内中小企業の出展のための参加費を支援する仕組みも設けており、海外でのPRに力を入れたい地元中小企業の参加促進につながっているようです。

現在、航空宇宙産業分野で世界を代表する国際展示会としては、フランス・パリとイギリス・ファンボローでのエアショーがあげられますが、隔年で交互に欧州で開催されるこの2つのエアショーには、北米からも州政府や関連組織などの多数の参加が見られます。

例えば、フロリダ州政府開発機構では、2009年のパリ・エアショーに州内企業18社をとりまとめて参加したほか、ノースカロライナ州では2009年のパリ・エアショーには初参加で地元3社とともに参加し、2010年のファンボロー・エアショーには、2月末時点で8社とともに参加する予定とのことでした。このほか、カナダ・ケベック州モントリオール市に拠点を置くケベック航空宇宙協会でも、エアショー参加時には、10~12社の地元中小企業とともに参加しているようです。

日本の中部地域でも、グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ(GNI)協議会が中心となって、昨年のパリ・エアショーへの参加に続き、今年もファンボローでのエアショーに地元企業とともに参加することが予定されています。

【表3】北米の主な航空宇宙産業集積地域における国際展示会への参加状況

州名	パリ(2009年)	ファンボロー(2008年)	横浜(2008年)
ワシントン州(米国)	北西太平洋航空宇宙連盟、ワシントン州商務省、ボーイング	北西太平洋航空宇宙連盟、ワシントン州商務省、ボーイング	ワシントン州政府商務省、ボーイング
ノースカロライナ州(米国)	ノースカロライナ州商務省、PTP、グッドリッチ	ノースカロライナ州商務省、グッドリッチ	グッドリッチ
フロリダ州(米国)	フロリダ州政府開発機構、中央フロリダ開発委員会、フロリダ偉大なる北西部、ジャクソンビル航空局、マイアミ・デード・ビーコン委員会、	フロリダ州政府開発機構、スペース・フロリダ、ユニゾン	ユニゾン
テキサス州(米国)	シコルスキー	シコルスキー	
オハイオ州(米国)	GEアビエーション、シフコ	GEアビエーション、シフコ	
カンザス州(米国)	グレーター・ウィチタ経済開発連合、スピリット・エアロシステムズ、ホーカー・ビーチクラフト	グレーター・ウィチタ経済開発連合、カンザス州航空省、カンザス市地域開発協議会、カンザス州商務省、セスナ、スピリット・エアロシステムズ、ホーカー・ビーチクラフト	
カリフォルニア州(米国)	ゼネラル・アトミクス航空システム、	カリフォルニア国際貿易開発センター、ゼネラル・アトミクス航空システム	
ケベック州(カナダ)	ケベック航空宇宙協会、エアロ・モントリオール、ボンバルディア、CAE	ケベック航空宇宙協会、エアロ・モントリオール、ケベック州政府、ボンバルディア、CAE	ケベック州在東京事務所、ボンバルディア

注1. 下線は、各エアショーに参加した州内組織

注2. テキサス州は、同州政府と米商務省の連携の下で出展しているため、出展者リストには州政府の名称は見られない。

<海外との提携を積極展開するカナダ・ケベック州モントリオール都市圏>

このような航空宇宙産業の集積地域による国際プロモーション、国際連携などの活動の中でも、特に活発な取り組みを見せているのがカナダ・ケベック州のモントリオール都市圏です。モントリオールには、ボーイング、エアバスに次ぐ世界第3位の民間航空機メーカーのボンバルディアの本社が所在し、半径 30km 圏内に航空機に必要なすべての部品が揃う一大クラスターが形成されているとも言われています。

同地域には、業界のシンクタンクの役割を果たしているエアロ・モントリオールや中小企業で組織するケベック航空宇宙協会(AQA)、また、産業界、大学、行政等の共同研究開発をコーディネートするケベック航空宇宙研究・イノベーションコンソーシアム(CRIAQ)などがあり、それら組織が海外へのプロモーションや海外との連携・協力を促進する牽引役としての役割を果たしていると言われています。

とりわけ、エアロ・モントリオールでは、2007年以降、フランス・トゥールーズに拠点を置くエアロスペース・バリー協会をはじめ、ベルギー・ワロン地域のスカイウィン・ワロン航空宇宙クラスター、ドイツ・ハンブルグの航空機産業クラスター、ポーランドの航空機産業バレーとの間で連携協定を締結しています。これらの協定に基づく活動は、まだ相互の情報交換が中心とのことですが、交流を通じて会員同士の連携に発展した事例も出てきているとのことですが、エアショーの舞台裏では、ブース出展にとどまらず、各国間でのミーティングや情報交換が活発に行われていることがうかがわれます。

<2012年は愛知、日本にとっても重要な年>

北米の主要航空宇宙産業集積地域の国際活動の把握を通じて、商用航空機、軍用機の開発、生産の拠点となっている集積地域の多くは、地元企業の海外展開の支援、地元への海外企業の誘致などを目的として、積極的に海外プロモーションを行っている様子がうかがわれました。

そうした中で、愛知県内では、日本航空宇宙工業会の主催により、日本で4年に一度開催される国際航空宇宙展がポートメッセナゴヤを会場に 2012 年秋に開催される予定です (<http://www.japanaerospace.jp/>)。また、同年には、現在開発が進められている、日本としては YS11 型機以来の国産機となる「MRJ (三菱リージョナルジェット)」の初飛行が予定されていますので、2012 年は愛知県にとっても航空宇宙分野での重要な節目となってきます。

この点、名古屋での国際航空宇宙展に向けて、現在、主催者や地元関係者らにより準備が進められているところであり、国内外の参加者にとって重要な国際交流・連携のきっかけの場となり、航空宇宙産業の集積地としての愛知・名古屋地域の知名度が一層高まることが期待されます。当センターとしても引き続き、北米の航空宇宙産業の動向について情報収集・発信を行っていくこととしています。